

ハラスメント相談対応(被害者・行為者対応)

<研修の特徴>

ハラスメント相談対応には3つのポイントがあります。

①導入時対応

…ハラスメント相談を成功させるため

②ハラスメントの判断ができるヒアリング

…ハラスメントの判断を正確に行うため

③クロージングとアドバイス(被害者向け、行為者向け)

…再発防止のため

以上の3点に基づき、理論とグループワーク、実際の例によるロールプレイを行います。講師は各企業・官公庁で実際にハラスメント相談対応の経験者です。そのため、貴社に合った具体的なアドバイスができます。

<カリキュラム>

●ハラスメント発生による組織への影響(データより)

- ・職場の雰囲気悪くなる
- ・生産性低下
- ・メンタルヘルス不調増加
- ・退職者増加

●被害の実態(データより)

- ・職場の3大ハラスメントは潜在的な被害者が多い
- ・「被害者の大半が相談しない」事実をもとにした環境づくり

●目指す相談体制・相談員像

- ・日頃から話しやすい相談員になるための3つのポイント
- ・気になる社員の見つけ方、声かけ法、心理学の法則による正しい態度
- ・「相談が多い=悪い 相談が少ない=良い」は誤り

●相談員が知っておくべきハラスメント・メンタルヘルスの知識

- ・判断時に迷うポイント(職場の3大ハラスメント)
- ・相談員が間違いやすいポイント(職場の3大ハラスメント)
- ・被害者、行為者ともにメンタルヘルス不調の可能性あり

(職場の3大ハラスメント…セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティハラスメント又介護に関するハラスメント)

※2020年6月施行の法改正に基づいた職場の3大ハラスメントの解説書を提供します。

●相談員が身に付けておきたい聴き方

- ・相談の失敗は開始直後の傾聴力不足
- ・傾聴とは(理論背景・基本的態度)
- ・2つのきき方体験(ワーク)
- ・相談場面で必要な傾聴の具体的スキル(ワーク)

●ハラスメント事例によるロールプレイ

- ・相談員の心構え
- ・事例をもとに相談員・被害者・フィードバック担当者役を体験
- ・事例をもとに行為者ヒアリングを体験

※実務で使えるヒアリングシート、傾聴チェックシートを提供します。

●行為者・加害者指導面談

- ・「行為者＝パワーハラスメント加害者」の前提は危険
- ・パワーハラスメント認定がなくても行為者に指導は必要
- ・行為者・加害者指導時の心構え
- ・指導の3ステップ「承認⇒傾聴⇒アドバイス」

※行為者・加害者がハラスメントやその疑いのある行為をせず、健康的で生き生きとしたチームを作ることができるような改善プランのご相談を受けることもできます。

<研修の効果>

- ・相談員が日頃から気になる社員を見つけ声をかけられるようになります。
- ・相談員が安心して相談対応に当たることができます。
- ・相談員のヒアリング力が上がり、実態をつかむことができます。
- ・行為者の改善のきっかけを作ることができます。

<研修時間>

2日間(上記を抜粋して1日で実施することも相談できます)